

5. 宮城県学力・学習状況調査及び全国学力・学習状況調査結果を踏まえた石巻市の状況

*調査対象：宮城県学力・学習状況調査 小学5年生、中学2年生

全国学力・学習状況調査 小学6年生、中学3年生

(1) 学力調査から

- ・正答率は実施した全ての教科で、県、期待値、全国の値を下回った。
- ・県と同様の傾向であるが、国語に比べ、算数・数学において、全国との差が大きい。
- ・設問数で見ると、一人あたりあと1～2多く正解すれば、全国の値を超えるか、それに近い数値となる。
- ・記述問題においては、依然、無答率が高い。最後まで粘り強く解答しようとはせず、途中であきらめてしまう傾向が伺える。

(2) 児童生徒質問紙調査から

- ・将来の夢や希望をもっていると肯定的に回答している割合は、小学5年生で9割以上、小学6年生で8割以上、中学2・3年生で7割以上であり、全国学力・学習状況調査においては、小・中学生とも、3年続けて県や全国の値を上回っている。
- ・国語や英語に比べ、算数・数学において、勉強が好き、授業の内容がよく分かると感じている児童生徒の割合が若干低い。
- ・友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意だと感じている児童生徒の割合は、県や全国の値を下回っている。
- ・難しいことでも失敗を恐れないで挑戦していると思っている、また、自分には良いところがあると感じている児童生徒の割合は、県や全国の値を下回っている。
- ・授業で分からないことがあったらどうするか、という質問に対しては、小・中学生とも「友達に聞く」と回答している割合が最も高い。これは、全国的な傾向でもあるが、だからこそ、友達同士でサポートし合える良好な関係を築いていく必要がある。
- ・家庭学習時間については、小学生で改善の傾向が伺える。特に、5年生から6年生にかけて、1時間以上学習する児童の割合が大きく伸び、逆に学習時間が少ない児童の割合は減少している。
- ・家で、自分で計画を立てて勉強している、また、授業の復習をしていると回答している児童生徒の割合は、小・中学生とも全国の値を上回っている。
- ・長時間（3時間以上）テレビ等を視聴したり、ゲーム、インターネットやメールをしたりする割合は、県や全国の割合を上回っている。

- ・スマートフォンや携帯電話の所持率は、小・中学生とも県や全国の値を上回っている。
- ・読書に親しんでいる児童生徒の割合（1日30分以上）は、小・中学生とも3割台だが、中学生が全国の値を上回っている。また、読書が好きと回答している割合も、中学率は全国の値を上回っている。

＊昨年度は1時間以上で見たが、数値的には10%台の比較となってしまうので、今年度は30分以上に広げて比較した。傾向としては、昨年度と同様である。

（3）学校質問紙調査から

- ・児童生徒の実態を踏まえ、「学力向上に向けた5つの提言」「石巻市立学校教職員スタンダード」、次期学習指導要領改訂の趣旨等に基づいて、授業の工夫・改善に取り組んでいる状況が伺えるが、文章に書かせる指導や探究的な学習活動といった点で、改善の余地が伺える。
- ・近隣の学校と合同で授業研究を行ったり情報交換を行ったりするなど、小・中の連携が進められている。
- ・家庭学習については、家庭との連携・協力がよく図られている状況が読み取れる。一方、宿題（課題）を課した後の評価や指導、宿題（課題）の内容を含めた、与え方に対する校内での共通理解という点では、課題が見られる。
- ・図書館資料を活用した授業を計画的（月数回程度以上）に行った学校の割合は、小・中学校とも全国の値を下回っている。特に中学校は10%に止まった。
- ・放課後を活用した補充的な学習サポートは多くの学校で行われている。一方、長期休業を活用した補充的な学習サポートについては、県や全国の状況と比較すると、十分とは言えない状況である。
- ・震災後、授業に集中して取り組めない児童生徒が増えたと回答している学校の割合が、小学校において大きく増加した。今後しばらくの間、注視しなければならない。